

桜

早春・・ということばもその季節も好きだ。

しかしそれも、風はまだキリツと冷たくて木々の影が斜めに長いのに、陽射しが輝き初めて眩しく感じられるようになる頃が好きなので、今年のように氷雨に降り込められて、底冷えの続く中でいつのまにか四月になってしまったというのは困る。

この春、やつとこのことで桜である。

二百区画ばかり暮盤の目のように分譲地の開けた丘の麓に、数本の桜があつて、いま、まさに満開。坂を降りて夕暮れの曇り空の下で、ほの白い花の塊を見上げていると妙に気分が沈んで来る。桜の樹の下にはむくろが埋まっていると書いたのは誰だったか。

悲しみにも似た気分の中で、今年の夏切り倒されてしまった我が家の桜の木を想い出した。行列だ、抽選だ、と大騒ぎをして買った地面にやつと家を建てたので、その当座は庭木にまで手が廻らず、造成地の泥色の土の上に、梱包した木箱を置いたように家だけが立っていた。だから絶好の標的だったのであるう、軽トラックに苗木を積んだ流しの植木屋がひっきりなしにやってきた。いわゆるままに玄関脇に桜の若木を植えて十年、自分の身長くらいだった丈が知らぬ間に伸びて枝が軒端につかえるようになり、ひよろりとして片手で握れた幹が一抱えぐらいになった。花は咲きぶりも散り具合も小さい時から見事で、四人の子供の入学記念の写真は順繰りにいつもこの樹の下で撮ることになった。家を建てるのが初めてなら子供を育てるのも初めて、まして庭木など植えたことがなかった。家を建てた桜の木がこんなに早く大きくなるものとは思ひもしなかった。知っていれば植える場所をよく考えたであらうに。

秋には繁った枝が二階の屋根に枯れ葉を散らして雨樋を詰まらせる。毛虫も少なくない。なにより往生したのは地下の錯綜した根が太くなってすぐ傍の排水管を壊すようになったことだった。あまり大きくなりすぎて何処かに移植することはもう出来ないというので、とうとう昨年、最後の花を咲かせて青葉になった頃、植木屋が切ってしまった。夕方帰宅してみたら玄関の脇にポツカリ空間が出来て家が裸になったようであった。直径三十センチもありそうな生々しい切り株が残っていて、切口には根が知らずに吸い上げたのであるうか、透명한水が盛り上がるように湧いていた。

植える場所を初めから考えてやれば、あの桜も若木のうちに切り倒されなくて済んだものをと、天寿をまっとう出来なかった桜が痛ましく、責任を感じる。

仕事で一年に十数人の人の死を看取ることがある。

大抵は高齢者で予期された死であることが多いが、救急病院だから若い人の不慮の死も少なくない。お年寄りの場合は諦めもつくが、若い人で、それも何とか術を尽くせば救えたのではないかと思えるような場合にはいつまでも悔いが残る。

例えば九歳の利発そうな男の子。親の言いつけで風呂のガス栓を締めに行つて風呂蓋もろとも熱湯に落ちた。全身熱傷。必死に静脈を確保して補液した。三日か四日か、助かるかと思ひかけたら肺水腫で死亡。正月二日のことだった。あの子はなんとしても助けたかった。補液が過剰だったかと、今思い出しても胸が詰まる。

正月二日といえば一昨年は宿直当番だった。早曉病院のすぐ横の道路で二十歳の青年がバイクでガードレールに激突した。物音に驚いた看護婦のH君が飛び出して行つて路上に転がっている青年を運び込んだけれど、頸の骨が折れていて即死だった。年賀葉書の処理に出勤する郵便局員であった。時々、白い花束が道端に置かれていたけれど最近は眼になくなくなった。

何も処置する猶予もなく亡くなった人には悪いけれど、それこそ仕方がないと忘れるしかない。そうではなくて、もっと適切な、先を見通した治療が出来ていれば救命出来ていたのではないかと、あれこれ考えるような場合は実につらい。

過失だ、医療過誤だと問い詰められれば立場上弁明せざるを得ないし、そしてそんなものではないと一応の立証をすることも出来るけれど、それはあくまでも一応であつて、もっと大きな存在から見た場合には、本当のところどこまでがこの人の死について自分が責任を問われることなのか知りたい・・と思うことがある。我が家の一時期を画した桜木の死については、安易に植木屋の勧めに乗った自分の無知に原因があることは明らかである。出来ればそれと同じように、亡くなった人たちの死に自分がどう関わっていたのかを知りたい・・・判るはずもないことだし、また判るとしたらとても怖いことではあるが。

何のグループか知らないが、二十人ばかりの男たちが桜の下に座つてぎっしり肩を寄せ合つて黙々と何か食べている。花見というにはこの人達の輪はあまりにせせこましい。花を賞でるでもなく酒を酌み交わすでもなく、夕闇の中に押し合つように座つて食べている。誰もこちらを振り向きもしない。振り向いて欲しくないので足音を忍ばせて、遠廻りして早く家に帰りたい。